

私たちの西宮はこんな街

## 人口は毎年増加

西宮市の推計人口は2015年(平成27年)1月1日現在で48万7299人。日本全体の人口が減る中でも、西宮市の人口は毎年1000人程度、増えていきます。死亡よりも出生が多い自然増加に加え、転入より転入が多い社会増加も続いています。

住宅開発などで児童数が急増する地区があり、2016年(平成28年)、薬師町に高木北小学校を新設します。大社小学校区のように行政が開発抑制を指導している地区もあります。しかし、西宮市の推計で

は、2020年(平成32年)

に49万2000人に達した段階でピークを迎え、やがて減少に転じる見通しで、将来においても50万人に達しそこにはありません。

## 長期的な人口増減の想定を

市は地域ごとの長期的な人口増減を想定しながら、行政サービスをそれぞれの地域に適した形で充実させていく必要があります。



お待ちしております!!

西宮市政についての疑問、不安やご意見をぜひお聞かせください!!  
かんの雅一が問題を丹念に取材したうえ、わかりやすくご説明します。

# 防災に全力!!

西宮市議会にジャーナリストの視点を

# かんの雅一

まさかず

無所属 元産経新聞記者 上智大学卒  
人の痛みがわかる56歳

1146人の西宮市民の命を奪った阪神・淡路大震災から20年。あの日、私は南甲子園の自宅マンションで激しい揺れを経験しました。新聞記者として家具が散乱する自宅から取材に飛び出し、目の当たりにした光景を今も忘れることができません。阪神高速道路の橋げたが落ち、多くの住宅が倒壊していました。

なぜ、この震災で多くの犠牲者を出したのでしょうか。行政も市民もこれほど大きな地震が発生することを想定しなかったことは間違いありません。私も報道機関の一員として震災発生の可能性があることを警告できなかった責任を感じてきました。

いま、南海トラフ巨大地震はいつ発生してもおかしくない状況です。この地震によって、最悪のケースでは西宮市において7664人が死亡す

ると想定されています。これは、阪神・淡路大震災をはるかに上回る被害想定です。

阪神・淡路大震災の悲劇を絶対に繰り返してはいけません。徹底した防災対策を実施すれば、犠牲者数を大幅に減らすことが可能という行政の報告が出されています。要は行政と市民が丸になって防災に全力で取り組むことだと思います。

どんな災害が襲っても1人の犠牲者も出さない。その思いを胸に、私は西宮市政に参画しようと決意しました。新聞記者の経験を生かし、問題の本質を突きつめて解決策を見つけていきます。

また、市政のさまざまな問題を池上彰さんのニュース解説のようにわかりやすくお伝えしていきたいと思えます。市政への疑問やご意見を、かんの雅一までお聞かせください。



かんの雅一後援会 2015年2月発行

tel : 090-1895-1488 fax : 0798-40-9530

mail : info@kannomasakazu.com

web : www.kannomasakazu.com

〒663-8153 西宮市南甲子園 3丁目 4-51-101

# かんの雅一

まさかず



## 本名

菅野雅一（かんの・まさかず）

## 愛称

かんちゃん

## 家族構成

大好きな妻と2人暮らし。

## 趣味

空手（剛柔流昌武館。習い始めて約10年、現在は黒帯）  
読書・ゴルフ  
野球観戦（阪神ファン）  
映画鑑賞（「寅さん」が好き）

## 西宮在住歴

通算約22年間、現在の南甲子園3丁目のマンションに住む。

## 性格

まじめで不器用。涙もろい。人の話を聞くのが好き。

## 西宮の好きな所

甲子園球場がある。山と海がある。交通の便が良い。文化や芸術に触れる機会が多い。おいしい店が多い。神社や寺が素晴らしい。人がやさしい。



## プロフィール

1958年（昭和33年）兵庫県神戸市生まれ  
神戸市立歌敷山中学校、県立舞子高校を経て、上智大学文学部新聞学科卒業  
1985年（昭和60年）日清紡績（現日清紡ホールディングス）勤務を経て、産経新聞社に入社  
●**姫路支局**で事件・事故を取材（念願の記者になり、充実の毎日）  
●**岡山総局**で瀬戸大橋の開通を取材（瀬戸内海の魅力にうっとり）  
●**大阪社会部**で事件や地方行政を取材（大阪の人情にほだされる）  
●**東京政治部**で首相官邸や自治省（現総務省）、社会党（現社民党）、民社党、共産党を担当（当時の海部俊樹首相や大島理森官房副長官＝前自民党副総裁＝、土井たか子社会党委員長の番記者を経験）  
●**大阪経済部**で松下電器産業（現パナソニック）など機械分野、関西国際空港の開港を取材（阪神・淡路大震災を経済の観点から継続取材）  
●社内留学制度で1年半、米国・カリフォルニア州のPitzer大学に留学（英語が上達しないまま渡米し、生活全般で苦勞。慣れたところに帰国）  
●**大阪経済部**で金融業界を取材（金融機関の相次ぐ破たんで大忙し）  
●**夕刊フジ関西総局**で編集業務を担当（早朝出勤で眠い毎日）  
●**大阪総合企画室**で大学生ら対象のセミナー「産経適塾」を担当（作家の佐藤優氏ら著名な論客を講師に年3回、開催。受講した学生らは卒業後、政界や経済界、マスコミで活躍）  
2015年（平成27年）1月 産経新聞社を退社し政治活動を開始。新聞記者として培った経験を活かし「市民の声を誰よりも取材し、わかりやすく伝える政治家」を目指す。

## 1 徹底した防災対策

南海トラフ巨大地震の最悪のケース（冬の早朝5時）では、西宮市は震度6弱の揺れと高さ3.7メートルの津波に襲われ、市全体の1割弱にあたる911ヘクタールが浸水。揺れと浸水で全壊する建物は738棟。死者数は7664人に達すると想定されています。しかし、複合的な対策を効果的に実施すれば、全壊棟数を487棟、死者数を11人まで減少させることが可能と兵庫県や西宮市はみています。



◎防潮堤の倒壊や沈下、越流を防ぎ、浸水地域を最小限に抑えること。県が10年計画で防潮堤の強化を進めており、これに協力して早期完了を促すこと。  
◎災害情報の効果的な伝達などで迅速な避難体制を構築し、避難率100%を目指すこと。特に、高齢者や障害者など「災害時要援護者」が安全に避難できるようにすること。  
◎避難所を良好な環境にすること。障害者用トイレの整備やプライバシーの確保、十分な食料備蓄などを図ること。

# かんの雅一が目指すもの

## 講じられる手段を全て早く効果的に実施するために全力を尽くします。

最近、大型台風やゲリラ豪雨が頻発。土砂崩れや道路の冠水、家屋への浸水被害などが発生しています。これらの対策として迅速な避難体制を整備するとともに、治山治水事業や砂防事業を県と協力して推進します。

## 4 高齢者が生き生きと暮らせる地域づくり

高齢者と地域住民の交流の場の充実、認知症などの早期発見・早期支援の見守り体制の整備、在宅療養を希望する高齢者の環境整備。

## 2 子供たちに世界最高の教育を

学校施設不足の解消、外国語授業の充実、IT教育の重視、道徳教育の充実、教師が教育に集中できる環境の整備。

## 5 世界に誇る「西宮ブランド」の確立

外国語の案内表記の整備で外国人観光客を誘致、西宮の魅力をもっと世界に発信、商店街の活性化、「文教住宅都市」にふさわしい良好な住環境の整備。

## 3 子育て世代に手厚いサポート

小児救急医療の充実、

学校施設不足の解消、外国語授業の充実、IT教育の重視、道徳教育の充実、教師が教育に集中できる環境の整備。